

高等学校における道徳教育

主題名 進路選択を通じて自己実現を目指す

資料名 「『自分』に挑む」 (出典「明日への扉Ⅱ」千葉県教育委員会)

学校名 千葉県立東総工業高等学校

指導者名 飯田 佐知

1 学習指導案

高等学校電気科1年 道徳学習指導案

平成29年10月26日(木) 6校時

(1) 主題名

進路選択を通じて自己実現を目指す

(2) ねらい

9歳の頃、脊髄腫瘍を発病し車いす生活を送ることとなった国枝慎吾は、母親の勧めで車いすテニスに出会い、強靱な精神力と圧倒的な練習量で、車いすテニス世界ランキング1位、さらにはパラリンピック金メダルを獲得した。様々な困難に絶望せず、その状況の下でも、国枝が、自分にはまだ失っていないものがあることに感謝し、それを大切にしている。その姿を映像資料で見ることによって、生徒には、人生の素晴らしさを感じさせ、更に高い目標を掲げていく気持ちを育ませたい。

併せて、「俺は最強だ!」を座右の銘に、頂点に上りつめた絶対王者 国枝が、2016年のリオデジャネイロパラリンピックで苦悩する姿、また、今よりもっと強い自分を目指して戦い続けている姿を通じて、あきらめない気持ちや、進路選択に際して、夢を持ち続け、目標に向けて努力を重ねようという気持ちを育てたい。

(3) 主題設定の理由

国枝は、自分の病気を受け入れ、「今生きていることが幸運だ」と感じている。世界一になった後も、自らを客観的に見つめ直し、「対誰かの戦い」から「対自分の戦い」へとテニスに取り組む考え方を変えた。現状に満足せず、自分を別の次元へと昇華させていったのである。

「あらゆる努力は自分の成長のため」のものであり、「ライバルは昨日の自分。昨日の自分よりも成長した明日の自分を作るため、今日努力する」と国枝は語る。努力できることに感謝している。困難な状況下でも失意に陥ることなく、試練を受け入れて感謝するその姿勢には驚嘆させられる。彼の生き様から、生徒には、現状に妥協したり、あきらめたりすることなく、より高い目標を掲げて、自己の成長や自立へとつなげようという意欲を持たせたい。

国枝が叫んだ「何万本打ってきたと思ってんだ!」という言葉。この言葉が意味するものを、学習を通じて生徒に感じさせるだけでなく、2020年の東京のパラリンピックでの国枝や他の選手の活躍に思いを馳せさせたい。

また、生徒自身にも、高等学校を卒業する2020年、そしてその後の自分自身の目標を定め、努力し続けてもらいたいと考え、本主題を設定した。

(4) 展開

| 過程 | 学習活動と主な発問 | 予想される反応 | 教師の支援 |
|-----------|--|---|------------------------------------|
| 導入 (6) | 男子テニス世界ランク3位のロジャーフェデラーの言葉から、国枝慎吾を知っているか問いかける。 資料「『自分』に挑む」を教 | ・日本選手だが、国枝慎吾を知らない。 ・車いすテニスが、よくわからない。 | ・資料に対する興味付けが意図。 ・国枝が困難に直面した |

| | | | |
|--------------------|---|--|--|
| | <p>師が朗読する。</p> <p>国枝の輝かしい成績を紹介し、彼が人より優れている点は何かを考えさせながらワークシートを記入するよう指示する。</p> | | <p>時の感情、言葉、判断、行動など心に残ったことをワークシートに書き込むよう指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国枝が、なぜ世界一になれたか、なぜスランプを脱した後、再び練習に打ち込むことができたかをワークシートに書き込むように指示する。 |
| <p>展開 (30)</p> | <p>DVD 視聴</p> <p>NHK 道徳ドキュメント「『自分』に挑む」を視聴する。</p> <p>ワークシートの内容についてグループで話し合い、代表の生徒に発表させる。 (KJ法とポスタープレゼンテーションを活用する。)</p> <p>【発問1】 国枝の言葉や行動で心に残ったものは何か。</p> <p>【発問2】 国枝が、なぜ世界一になれたか、なぜスランプを脱した後、再び練習に打ち込むことができたか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見はしっかり聞いてもらえるだろうか。 ・「車いすになったことはマイナスかもしれないが、本人の気持ちの持ちようや、本人がどう行動していくかによって、人生はプラスにも変換できる」という言葉。 ・「対自分」という新たな目標を持ったから。 ・世界一になっても自分の課題は、たくさん | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の反応を見ながら、視聴させる。 ・視聴しながらワークシートを記入できているか確認する。 ・国枝に共感させ、自分自身を見つめるきっかけとさせる。 ・現在の自分のあり方を認識させ、国枝の考えとの対比で自分自身を見つめさせる。 ○現在の自分のあり方を認識させ、国枝の考えとの対比で自分自身を見つめさせる。 ○この資料で学んだことを話し合い、ワークシートに記入することで、価値の主体的自覚を促す。 ○価値追求の発問。 ○国枝のどんな困難にも前向きに行動する姿に共感させたい。 ・しぶしぶ始めた車いすテニスでも目標を持って努力することで強くなったことに気づかせる。 ・「目標達成後の気持ちの変化」に注目させる。 |

| | | | |
|--------------------|---|--|---|
| | <p>【発問3】 国枝がどんな思いでプロのテニス選手をしているか。</p> | <p>あることに気づいたから。 ・もっと強くなりたいと思ったから。</p> <p>・車いすの子どもたちに夢と希望を与えたい。 ・もっと強い選手になりたい。 ・より高い目標をもって強くなりたい。</p> | <p>スランプを脱することができたのは、「上位の人に勝つ」から「自分に勝つ」へと目標が変化したことを押さえる。</p> <p>・目標の変化と関連させる。「自分のため」だけでなく「車いすの子どもたちを勇気づけたい」という目標のさらなる変化に気づかせたい。</p> |
| <p>終末 (14)</p> | <p>【発問4】 国枝の生き方を通して考えた事は何か。</p> | <p>・国枝さんのようにより高い目標をもってがんばりたい。 ・あきらめることなく、自分の中で高い目標を持ち、それに向かって努力することの大切さに気付いた。 ・人と比べるよりも自分で目標を決めて努力することは大切だな。</p> | <p>○「自分の目標を持って努力する姿」に着目させ、自分を振り返らせる。 ○「他人との比較」ではなく、「自分の中の課題」や「目標・努力の大切さ」についてふれたコメントを取り上げたい。 ○己の中にある弱さを見つめ、それを克服してこうという意識を持たせたい。</p> |

(5) 他の教育活動との関連

昨年度のコミュニケーション英語Ⅱで使用した教科書では、国枝慎吾が取り上げられている。また、今年度使用している英語の教科書にも、佐藤真海が取り上げられるなど、パラスリートの活躍を題材にした教材は数多くある。困難に立ち向かう姿を通じて生徒自身の内面に切り込んでいく指導は様々な場面で可能であると考えられる。

2 事後検討会

(1) 授業記録

T それでは、班ごとに話し合った内容について代表の人に人に発表をしてもらいたいと思います。最初にできた6班さん発表してもらっていいですか。

S 【発問2】の回答

国枝選手が再び練習に打ち込むことができた理由について発表します。僕たちが考えたのは、「行動力」、「向上心」、「人一倍どん欲に練習したから」、「自分という新たな目標を手に入れた」等がありました。

【発問3】の回答

「一人でも車いすテニスを広めたいから」、「車いすテニスをもっと広まってほしい」、「プロに

行けば、もっと自分が強くなれると思ったから」、「障害を持った子供たちの目標に慣れるようにという思いから」という意見がありました。以上です。

(生徒から拍手)

T 映像でもありましたよね。ビデオの中で小さい車イスの男の子に、何をしてあげていましたか。

S サイン (多くの生徒が回答)

T 何にサインをしていました。

S 帽子。

T あれもらった子はどうだったでしょうか。

S (「うれしい」、「感動した」。「プロテニスプレーヤーになった」等の様々な答え)

T それはまだ早いでしょう。(プロテニスプレーヤーの意見に対して)

(2) 授業の感想

(生徒の感想)

・「障害があるからこそ車いすテニスに出会えた」、「障害のある子供たちを応援したい」など、

障害があっても人生を楽しめていると思った。

・自分も自分に自信をもって精一杯生きていきたいと思いました。

・障害という高い壁を越えて、世界のトップに立つということは、自分次第でどんな逆境も超えられるということだと感じた。

・足が不自由なく使えていることに日々感謝して生きていきたい。

・誰かを目指すだけではなくて、自分で目標を掲げて行動することも重要だと感じた。

(参観者の感想)

・先生各人によって、やり方に違いがあり、個性が出ていたと思います。

・生徒たちは自分の考えを「ワークシート」に記入していましたが、考えをより深く導くことができると思います。

・時間が不足し、子供たちと先生の間に関係が深まらなかったように感じました。

・テーマごとに考える時間が少なめだった気がします。

3 本事例の活用に関する留意点

(1) 教材について

授業で用いた映像資料は、NHK道徳ドキュメントの「『自分』に挑む」である。ロンドンオリンピックまでの内容で構成されている。今回の授業では利用しなかったが、WOWOWで放送された国枝慎吾のドキュメンタリー「WHO AM I」も後日活用した。その後のリオデジャネイロオリンピックまでの国枝の苦闘が描かれており、更なる困難に立ち向かう姿を生徒に見せることができる。

(2) 指導上の工夫

今回はICTを活用し、導入から展開の部分で国枝慎吾や車いすテニスについて生徒が興味をもてるように説明を行った。また、グループでの話し合いがスムーズに進むよう、KJ法やポスタープレゼンテーションを通じて生徒が意見をまとめ、発表しやすい環境づくりにも努めた。

